

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
<http://www.city.akita.akita.jp/>

市長ほつて コラム

市長 佐竹敬久



卒業、そして門出

弥生三月は卒業や退職、卯月四月は入学や就職と、我が国では人生の大きな区切りの季節となります。

市長として卒業式や入学式に招かれ、お祝いの言葉を述べる機会をいただくことが毎年数回ありますが、今回は卒業式を取り上げることになります。

今では卒業式の内容も、かつてのように「蛍の光」と「仰げば尊し」の二曲が定例のワンパターンではなく、各校各様に特色がよく表される進行になってきているようです。

そのような中で、私の見た限りでは、特色を出しながらも皆真剣で整然としており、間々報道される他県のかんばしくない事例などに比べれば、本市の教育は正常に機能しているということを実感できます。

さて式に臨めば、ついつい数十年前の自分の時は、また自分の子どもたちの時はどうだったのかな、と思いきり起こしながら、希望を胸に抱きつつも、進学や実社会への門出を前に不安な面持ちが見え隠れする卒業生の表情に自然にまなざしが向きます。



この3月に58年間の歴史を閉じた雄和・大正寺中学校の卒業式

よく、最近の若者はドライになっていると言われます。しかし、大半は神妙な面持ちで、女生徒の場合は式の後半になるにつれ、ついつい涙という風景も多く見られますし、男子生徒でも、退場の際に在校生から花一輪を贈られ、胸から突き上げるものをこらえ顔が紅潮しこわばっていくのが伝わってきます。

今年のある卒業式で、卒業生ではなく在校生の一人の男子生徒が号泣し始めるという珍しい光景を目にしました。どんな思い出があったのか

など思いつつ、はばかりことなく涙を流す彼の姿を見て、決して悪いことではなく、心に深く刻まれるような素晴らしいことがあったんだな、と感動を覚えたひとコマでした。

保護者席もひと昔前とは少し様子が異なり、最近ではビデオカメラやカメラ付き携帯電話などを手にしたかたが目につきます。きっとしばらくは、映像の中の我が子の成長した姿に目を細めながら、あらためて一家談笑、感無量というところでしょう。

いずれ、卒業は進学、就職という次のステップへの大きな門出です。「この子どもたちはどんな人生を歩むのかな、人生は人の数だけあるが、できることなら皆に良い人生を歩んでもらいたいな」というのが、いささか感傷的な雰囲気となる卒業式の最後に抱く偽らざる気持ちです。

きっと、ともに笑い悩みながら指導された先生がたには、教鞭の将来にさらに深く温かい思いを抱いていることでしょう。

保護者にお祝いを、先生に感謝を、はばたく若い力にエールを。





とき 4月24日(日)午前11時
ところ アルヴェ2階多目的ホール

スギッチと子どもたちが秋田市で開催する11競技を紹介
カウントダウンボードの点灯式 山王中吹奏楽部の演奏
来場者にはスギッチグッズをプレゼント

平成19年9月29日から開催される「秋田わか杉国体」。
4月24日(日)は、その開会のちょうど888日前にあたります。
この「8」が3つそろう日を記念してカウントダウンイベントを開催します。入場無料。直接会場へどうぞ。

さあ、再来年の国体に向かって、みんなでカウントダウンだ!

リーフレットを作成

国体開催をPRするリーフレットを作成しました。秋田市で開催される11競技を紹介しています。

市役所1階の市民相談室や、土崎・新屋支所、各コミュニティーセンターなど、市の公共施設に設置していますので、ぜひご覧ください。

問い合わせ 国体局総務企画課TEL(866)2830



スギッチ情報局

あれは44年前...

昭和36年の秋田国体が縁で今も他県の人と交流があるかたの思い出を紹介します。“まごころ”がいっぱいつまったあなたのお話を聞かせてください。

国体局総務企画課TEL(866)2830

参加して、そこで覚えたホイル焼きなどの料理をふるまい、選手たちをもてなしたそうです。「近くのお宅に同じ北海道の男子選手が泊まっていたんですけど、なぜか夕食を食べ終わると、うちに集まって来るんです。いつも五、六人はいて、とつてもにぎやかでしたよ。うちの子どもたちと遊んでくれたりもしました」と当時のことを思い出してくれました。当時中学生だった娘さんは、八橋の競技場へ行って、この北海道の選手たちを一生懸命応援したそうです。

石川英子さん(84歳・千秋)

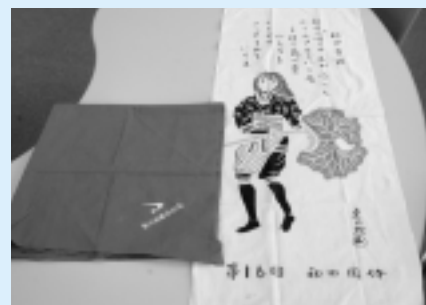
民泊の思い出をつなぐ 四十四枚の年賀状



記念の手ぬぐいを手に微笑む石川さん

昭和三十六年の秋田国体は別名“民泊”国体とも呼ばれ、六日間の大会期間中、参加した選手や役員の方の半分以上の七千人あまりが一般の民家に宿泊しました。石川さんのお宅はその中の一軒です。北海道代表の女子陸上競技選手三人が滞在しました。石川さんは、秋田北高校を会場に行われた民泊家庭の料理講習にも

石川さんはこのとき毎晩のように遊びに来ていた選手の一人、北海道に住む秋場春男さんと、今年賀状を交換し続けています。「秋場さんからは四十四年間途切れることなく年賀状をいただいています。うれしいですね。実はタベ初めて、思い切つて電話してみたんです。当時十代だった秋場さんが六十代になって随分話が弾みました。いつも年賀状にも遊びにきてくださいって書いてあるんです。今度、北海道に行くことがあったら、ぜひ連絡してみたいですね」とうれしそうに話してくれました。料理や洗濯など、選手の方の回りを精一杯サポートした前回の秋田国体。ちよっぴり心残りなのは一度も競技場に行けなかったこと。今度は「できれば会場に行きたい」と、再来年の大会を楽しみにしています。



民泊家庭に配られた記念の風呂敷と、秋田音頭の手ぬぐい。「第16回秋田国体」の文字が見えます。